

# おおさか元気広場通信

平成 30 年 12 月 8 日

平成 30 年 12 月 8 日、阪南市立下荘小学校のおおさか元気広場「下荘わくわく教室」を訪問しました。NPOによるプログラム、タブレットの活用、中学生スタッフ等、たくさんの特徴的な取り組みがありました。

## 「わくわく教室」

阪南市では、市内 4 つの小学校で、おおさか元気広場「わくわく教室」を行っています。各小学校で月 1～2 回開催し、年に 1 回は 4 校合同の全体交流会も行っています。

子どもたちは、まず受付で参加カードを提出します。カードにハンコを押し、名札をもらいます。



子どもたちは、まず受付で参加カードを提出します。カードにハンコを押し、名札をもらいます。スポーツや体験活動等、多様なプログラムを行っています。わくわく教室を通して、子どもたちは、「これまで遊んだことのない子と交流できた」「これまでやったことのない活動ができた」といった声があり、毎回のわくわく教室をとっても楽しみにしています。

今年度の下荘わくわく教室プログラムの一例（予定含む）

- ボール遊び    ○ 押し花づくり    ○ ペーパークラフト
- グラウンドゴルフ、ディスクゴルフ    ○ えほんのひろば
- 和太鼓    ○ スポーツチャンバラ    ○ ロープワーク    等

## 「子ども NPO はらっぱ」によるプログラム

今回のプログラムは「子ども NPO はらっぱさんによる遊び」です。はらっぱさんは、市内のおおさか元気広場の運営に関わっていたり、各校を回って、楽しいプログラムを行っています



## プログラム休憩時にタブレットを活用

昨年度、タブレットを 6 台購入しました。プログラムが始まる前や休憩時間に使用しています。タブレットには、同時に購入した学習ソフトが入っています。



タブレットを使用している子どもたちに聞くと、「家ではタブレットを使っていないけど、学校で使っているものと同じだからやり方がわかる」とのことでした。



6 台のタブレットはあっという間に貸し出され、子どもたちはみんな学習ソフトに取り組んでいました。

## 中学生スタッフの活躍

下荘わくわく教室には、2 名の中学生スタッフがいました。主な役割は、小学生と一緒にプログラムに「参加するスタッフ」です。プログラムに参加しながら、小学生を見守り、まとめるリーダー的存在です。



二人は、小学生の頃にわくわく教室に参加しており、コーディネーターさんもよく知っているそうです。



コーディネーターさんは、一緒に遊んでくれて助かっているとおっしゃっていました。

